
日本アルプス北端の地に ようこそ！

白馬岳→朝日岳→榑海新道→親不知

白井達也

今年のチャレンジ第二弾は、北アルプスの超メジャールート榑池～白馬岳から、榑海新道をへて日本アルプス北端の親不知海岸に抜ける縦走コースです。

鞍岳を超えるころにはガスの中。白馬大池に到着するころにはとうとう雨が降り始めました。(T_T)



●メンバー L 斎藤 (亘)・白井

●2015年8月13日(木) 曇り時々晴れのち雨

●コースタイム

榑池自然園駅8:05→天狗原9:40→乗鞍岳10:45→白馬大池山荘11:25→小蓮華山13:25→白馬岳15:15→白馬山荘15:30

累積標高+1428m -402m 距離11km
歩程7時間25分(休憩含む)

12日23:00都庁大型バス駐車場発の、榑池高原行毎日アルペン号にて出発です。同時刻発の新穂高温泉行のバスには、西御両人が乗り込み、槍ヶ岳を目指します。車内はそれ程混んではいませんでしたが、4列シートではなかなか熟睡とまではいかず、寝ぼけまなこで定刻6:00頃榑池高原に到着しました。

ここからはゴンドラとロープウェイで標高1829mの榑池自然園駅まで一気に上がりますが、機械整備に時間がかかって運行が遅れ、歩き出しが8時過ぎになってしまいました。しかし今日は白馬山荘までと気楽に歩を進めます。

歩き始めは日が差していた天候も、乗

晴れていれば展望絶景の雷鳥坂も、ガスの中ではただ足元を見つめて登るのみ。おまけにこのあたりから寝不足のせいか、ガクリとペースが落ちて、主稜線に出ても白馬岳まで長いこと長いこと。唯一小蓮華山の手前で雷鳥2羽を見ることができたのが幸いでした。

●2015年8月14日(金) 雨のち曇り

●コースタイム

白馬山荘6:03→白馬岳6:19→三国境6:44→雪倉岳8:46→燕岩水場10:00→水平道分岐10:50→朝日小屋12:20

累積標高+775m -1461m 距離12km
歩程6時間17分(休憩含む)

2日目の朝も小雨の中出発。昨晚の山のホテル白馬山荘では、歌声酒場のイベ

ントもあったようですが19時前には爆睡。今日は睡眠十分です。

相変わらずの視界不良の中、白馬岳を越え三国境の分岐を右に分けると、徐々にガスが晴れて鉢ヶ岳の巻き道が見えてきました。巻き道は美しい高山植物のお花畑と残雪を横切って、意外と存在感のある雪倉岳山頂へと続いています。

一瞬日が出るかと思われた天候は、雪倉岳の山頂手前でいよいよ本格的な雨になり、休憩をとる気にもなれず標高差600mの長い稜線をただひたすら下ります。

ガスで視界不良の中、少々道に不安を覚えるころようやく燕岩の水場に到着。

(降雨のため流水多数あり)ここから道は一変し樹林の中の巻き道を行います。ガスに煙る赤男山の大ガレを右に見て少し登ると小桜ヶ原に到着。湿原の中に池塘が点在し、その中を木道が朝日小屋への水平道分岐先まで続いています。

水平道は道の状態が良くないと聞いていましたが、沢の詰めに残る小雪溪の横断2回と、尾根の乗越し4回のアップダウン位で道もしっかりついており、頂上越えよりは時間短縮になる印象でした。



早めに朝日小屋に着き、濡れたものを

ハンガーにかけたりしている内に天候は徐々に回復。外のベンチで、小屋で買った缶ビールを飲みながら遅い昼食をとっていると、一瞬ですが北西の方向に泊の海岸線を望むことができました。小屋前の広くて平らな天場の周りには花が咲き乱れ、静かでなかなか良い環境です。

赤ワインでの乾杯で始まる夕食も、比較的海に近いせいか、自家製の(冷凍したものを持ち上げるのでしょうか?)地魚の昆布の締めや、イカの沖漬けなどが付いて、なかなか手が込んでいます。予約が無いとダメ!と言うのも、わからないではない気がします。

●2015年5月15日(土) 晴れ

●コースタイム

朝日小屋5:27→朝日岳6:18→吹上のコル6:48→長楯山標識7:33→アヤマ平8:10→黒岩平9:17→黒岩山9:50→サワガニ山11:13→北俣の水場12:03→犬ヶ岳13:14→楯海山荘13:21

累積標高+890m -1487m 距離14km

歩程7時間54分(休憩含む)

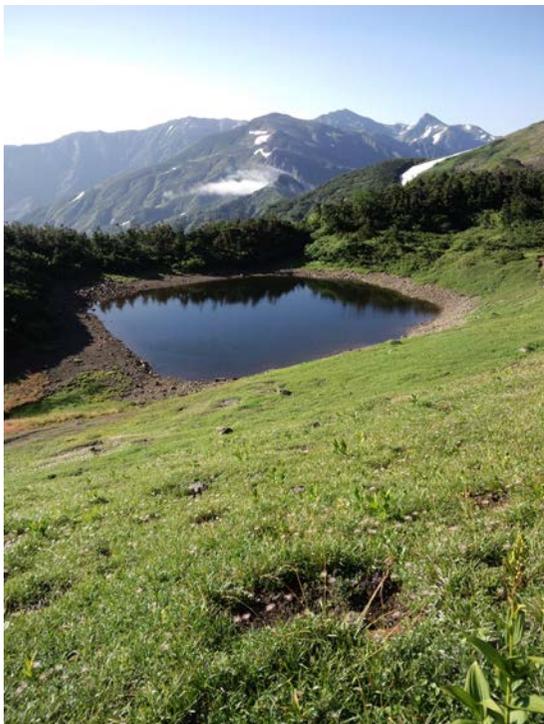
縦走3日目。今日からいよいよ本番突入です。久しぶりの青空の下、朝日岳への登りにかかります。小屋の取水場所を右下に見て一段上がると、右手奥に朝日に輝く劔岳の雄姿が見えてきました。まさに岩の鎧を纏った名峰です。

森林限界を超え、ほどなく朝日岳の山頂に到着。朝日と共に360度の大展望が我々を迎えてくれました。南の方には昨日雨の中越えてきた雪倉岳・白馬岳。その右には旭岳・清水岳と続く稜線の奥

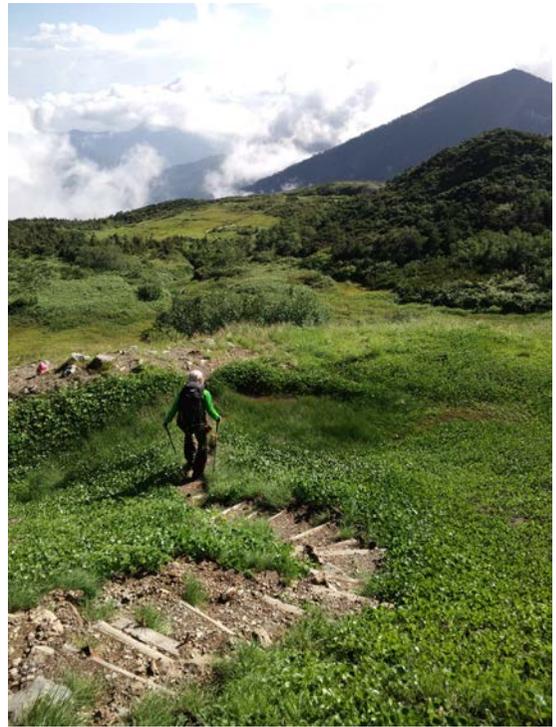
に、劔岳から毛勝の山々が伸びています。西には青く富山湾。空との境に伸びる、能登半島の細長いシルエットも見えます。そして北方にはこれから向かう栂海の山々が、折り重なって日本海に向かって伸びていました。

風の強い吹上のコルで蓮華温泉への道を分け、赤ペンキで栂海新道と書かれた岩から藪っぽい尾根を進みます（道は良く踏まれていて迷う心配なし）。

藪尾根を抜けると、道は稜線を右に外れて菱形の照葉ノ池に到着。幕営適地ですが、環境保全のために禁止です。少し登って上から見下ろすと、二つ並んだ池の先にはっきりとは判りませんが、道のようなものが見えます。五輪山を巻いて蓮華温泉に下っている道でしょうか？



砂礫の長栂山を越えると、道は黒岩平までの長い下りになります。途中木道を



敷いたアヤマメ平など湿原を通過しますが、このあたりの花はもう盛りを過ぎしまったようで、ちょっとさびしい感じでした。しかし夏の日差しはさすがに強く、黒岩平（ここも幕営禁止ですが、木道上のベンチで泊まれるかも）の水場（残雪からの沢水です）でしっかり給水。（評価 竹）黒岩山の登りに備えます。

黒岩山へはここからさらに下って登り返します。広い尾根を少し登ると中俣新道分岐に到着。ここから左にちょっとで黒岩山山頂です。山頂から北の展望は、四方八方山また山の積み重なりで、どれが犬ヶ岳なのか良くわかりません。とりあえず目の前のアップダウンの多い稜線をたどって、先を急ぐことにします。（後日写真を見るとプリン型の犬ヶ岳が写っていました。わからないものですね～）

中間のピークサワガニ山は展望がよく、

ようやく目の前に犬ヶ岳の全容を確認することが出来ました。(本日の宿、柵海山荘はこちら側からは見えません) ホツとしたのもつかの間。次の心配は水の確保です。柵海山荘は水が無いので、持って上がらなければ干上がってしまいます。ここまで山名標識などはしっかり付いていたので、水場表示も在るとは思いましたが、十分注意して稜線を下ります。

水場があるはずの稜線左側を観察すると、犬ヶ岳手前の最低鞍部の傾斜が一番緩くなっています。あそこに間違いなしと見当をつけて下って行くと、果たして「北俣ノ水場」標識が在ります。ただ、疲れているとこの大きな標識も見落とすようで、テント泊単独行の人が素通りしようとするのを呼び止めて、一緒に水を取りに降りる一幕もありました。

北俣ノ水場は、文字通り黒部川の一大支流である北又谷の源頭に湧き出る清水で、水量は多くないものの、柵海新道の水場のうちで一番の味・水質と感じました。(評価 松) ぜひ翌日の分までたっぷり取ることをお勧めします。

コルで昼食をとった後、犬ヶ岳への最後の登りにかかります。水で重くなったザックを背にひいこら急坂を上り詰めると、あれ？頂上はまだ先です(ニセ犬ヶ岳?)。がっかりしながら北又源頭の痩せ尾根を通過。数度のアップダウンを繰り返し、最後の急登をこなしてようやく細長い犬ヶ岳の頂上にたどり着きました。(暑さで頂上からの景色はあまり記憶がありません) 早く小屋に着きたい一心で頂上では写真撮影だけでスルー。直下の

肩に建つ柵海山荘に急ぎます。

柵海山荘は無人小屋ですが、きれいで毛布も沢山常備されていて、1人2000円+小銭を募金箱に投入して使わせてもらいました。さすがに電気は無いので、寝る場所を確保した後は外のテーブルでまったりとした時間をすごします。(朝日小屋でビールを調達し忘れたのが残念) この日は我々を含めて小屋泊6名、テント泊5~6名の静かな夜となりました。

●2015年8月16日(日) 晴れ

●コースタイム

柵海山荘5:20→黄蓮ノ水場6:29→菊石山7:00→白鳥山8:43→シキ割ノ水場10:04→坂田峠10:54→尻高山11:51→二本松峠12:39→柵海新道登山口13:55→親不知海岸14:16

累積標高+863m -2418m 距離16km

歩程8時間56分(休憩含む)

縦走最終日は時間に余裕があるので、ご来光を待って出発しました。東に見える火打山・妙高山のシルエットが印象的です。昨晚、街の灯りがチラチラしていた糸魚川の海岸線もくっきり見えます。

小屋を4分の1左に回って北に向かう急な尾根を下り、黄蓮山を越えてさらに下りきったところが黄蓮ノ水場です。こちらは青海川支流のアイサワ谷のそのまた支流の沢水ですが、流れが細くほとんど水溜り状態。普段なら・・・ですが、この暑さで水がキレたら大変なので念のため給水しておきます。(評価 梅)

ここから道は、急な上り下りを繰り返しながら白鳥山に続いています。背後か

らの日差しはいよいよ強く、気温も標高を下げている分ますます暑く、まさに消耗戦です。途中白鳥の水場の標識がありました。あまり期待できそうもないので今回はパス。頂上まで頑張ります。

ようやくたどり着いた白鳥山の頂上には、白い2階建ての避難小屋が建っていて、日差し除けのために中に入ると、狭いながらもきれいで、しっかり管理されている印象です。特に2階は展望が良さそう（暑そう）です。

白鳥山を後に少し下ると赤い鳥居が道を跨いで建っています。この時は意味不明??でしたが、今にして思えば白鳥山への最短ルート、山姥道の合流点であったかもしれません。

次の目標はシキ割の水場ですが、ここはちょっと地形が複雑です。地図上のシキ割の表記は尾根上(標高960m位)を指しているように見えますが、実際に沢が尾根に割り込んでいるような地形はもう少し下った(標高差約-50m)ところです。何ともあれ水場に到着。沢水を溜める蓋つきの金属缶にコップが付いていますが・・・。私は味見の一口だけいただきましたが、野生味満点のリーダーはタオ



ルを濡らして頭を冷却。充分水分補給した後「コップに黒いヒルみたいなのが入ってきたな～。缶の中に住んでいるのかも」などと恐ろしいことをのたまわります(・o・)。(缶の中は未確認)ま、飲む飲まないは好き好きです。(評価不能)

この先、金時坂の頭から携帯が通じる坂田峠まで道は一気に下ります。(標高差約320m)さすがに縦走4日目ともなると、急傾斜の下りでは足裏が悲鳴を上げてきます。二日目に泊まった朝日小屋の女将が、朝食時に各ルートの注意点を説明してくれましたが、「樺海新道の核心部は?と問われれば、坂田峠から先と答えます」の言葉が現実的になってきました。ともあれここで昼食の大休憩。ふと時計を見ると白鳥山から2時間以上かかっています。(・_・;)ここでコースタイムを30分以上オーバーとなると、親不知の海岸で海に沈む夕日を見ることになりかねません。水を1ℓ捨てて出発しました。

ここからは緩やかな上り下りで尻高山。(展望なし)標高差300mを下って二本松峠を越え、入道山に至ります。(途中林道の横断あり)木の間越しに日本海を見ながらの下降です。標高はすでに500mを切り、暑さやいかにも思っていました。意外と海風が涼しくて助かりました。時折ゴーという音が聞こえるのは新幹線の通過音でしょうか?。休憩ごとに水を捨て(荷を軽くしたい)ながら、気合を入れて海拔0mへのビクトリーロードに臨みます。

さほどでもない(金時坂ほどでは)坂を下っていくと、あれ?送電鉄塔が出現。続いて二つ目。そして地図にない林道を

横断。そのうちあっけなく金網の張られた国道8号線に到着しました。ちょっと拍子抜けしてしまいましたが、まだ我々の縦走は終わっていません。道路を渡った向かいの駐車場（自販機・トイレ在り）で、亘さんは冷たいコーラの一気飲み。私はトイレで海パンに履き替えます。

梶海新道起点の親不知海岸へは、観光ホテルわきのコミュニティロードを下っていきます。どうやらここはジオパークとして整備されているようで、長い階段が海まで続いています。そして10分後、海とはおよそ似つかわしくない、ザックを背負った山屋二人が、大岸壁迫る海岸で観光客の好奇の目を集めることになりました。大声で海に向かって歓声を上げ、写真を撮りまくったと思えば、やおろ服を脱いで海にドボン。とても正気の沙汰とは思えません！。海の波間にポッカリ浮かんで見上げる青い空、白い雲。雨に打たれながらの稜線歩きが、遠い昔の出来事のような最高のフィナーレでした。

喜びを爆発させた後は、親不知観光ホ

テルで入浴（展望風呂）後、車で親不知駅まで送っていただき（セットで1500円です）、えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン（随分と長い路線名です）で糸魚川まで出て、打ち上げ宴会！翌朝北陸新幹線に乗って昼前に帰京しました。

今回の山行でビックリしたのはトレラン・軽量高速登山者が多いこと。白馬大雪渓から親不知まで一昼夜とは・・・！時代は変わったものです。



●2015年8月13日（木）～16日（日）

トータル距離52km

累積標高+3964m -5772m

歩程30時間32分（休憩含む）

